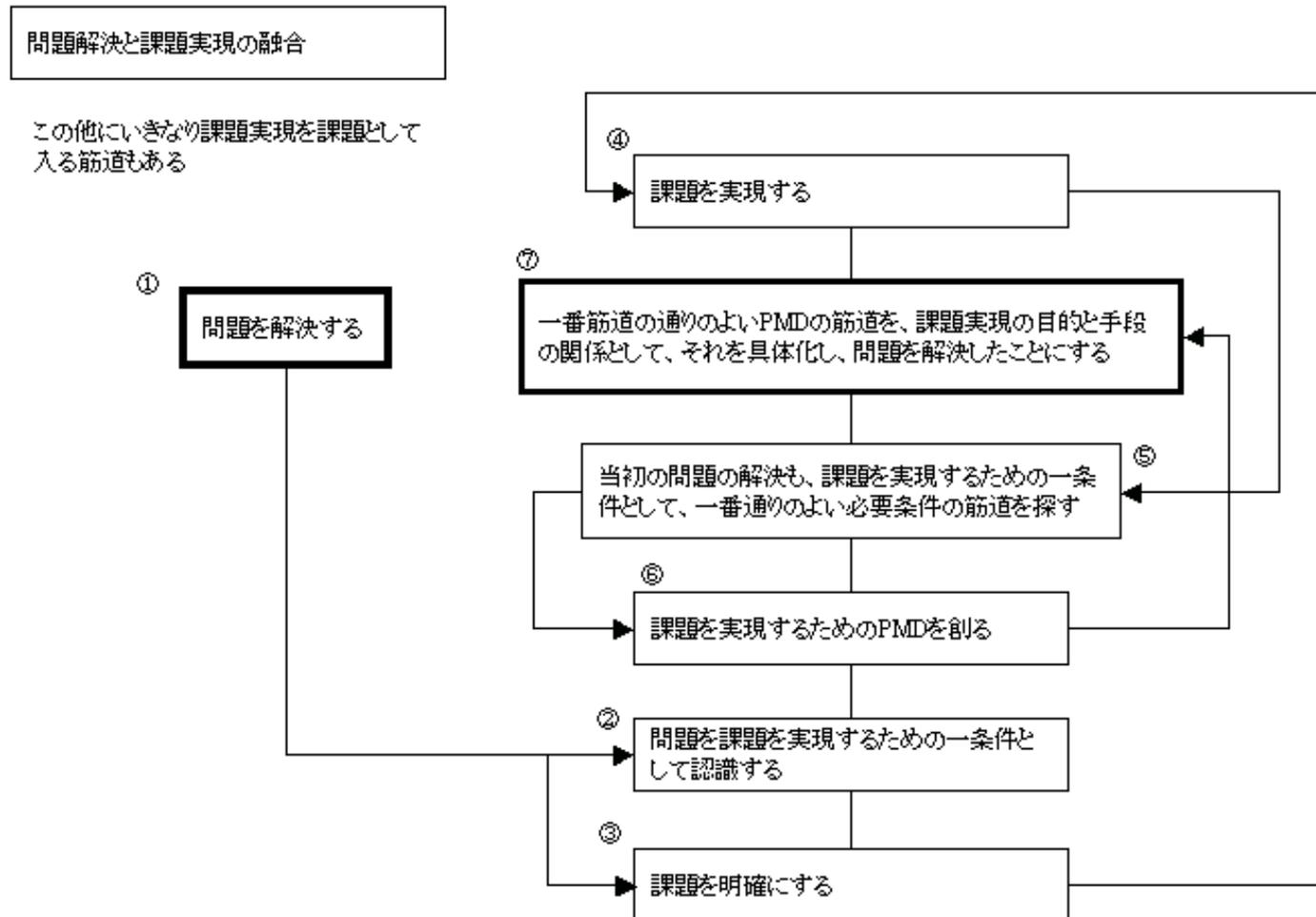


# 問題と課題の違い、問題と課題の関係は、知識を知恵にかえる方法により明確化でき、**問題の解決を的確にできる**

(知識を知恵にかえる方法：<http://dten-wisdom.jp/> と PMD 手法を参照のこと)  
(PMD 手法：<http://dten-wisdom.jp/J-Edition%202/J04-chap%202-1%20PMD%20method.pdf> と  
<http://dten-wisdom.jp/J-Edition%202/J05-chap%203-1%20domain%20of%20consensus.pdf> を参照のこと)



問題は解決するものであり、課題は実現するものである。  
(よく課題解決という言葉を見かけるがこれは間違い)

問題を課題実現の1つの必要条件として、位置付け、課題を実現するためのPMD手法により、PMDを創って考えて見ると、最初に考えていた、問題のところを通らなくても、課題が実現できることがある。・・・問題が消えてなくなる。  
(これは誰しも体験していることである)

また、課題を実現するために、最初に捉えていた問題(必要条件)のところを、通らねば、課題が実現できないというPMDが出来上がったときは、その必要条件を、実現するための必要条件を整え、それを実現しさえすれば、課題は実現し、同時に問題は解決する。

これにより、今まで、問題を突き詰め

ていくと、問題がなくなったり、消えてなくなることがあることの体験を説明できたことになります

詳細は、論文：「問題解決」と「課題実現」の融合 <http://dten-wisdom.jp/J-Edition%202/J26%20app%20N%20problem-subj%20J.pdf> を参照のこと)

なぜこのようになるのでしょうか？

従来、問題というと、すぐ原因は何かというように、原因追究に走る人がいます。(これを英語では Root analysis といいます)

しかし、問題を課題に置き換えた途端、課題には、その課題には目的があるということに気がつきます。

そして、その目的には、さらに上位の目的があることに気がつきます。

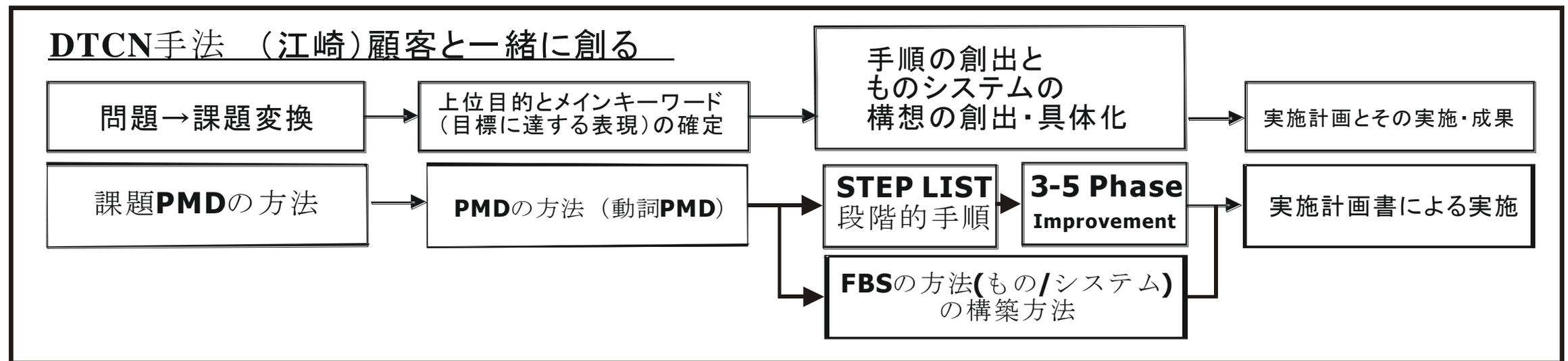
その上位目的を確認するのが、知識を知恵にかえる方法の中の **PMD (目的と手段ダイアグラム) の方法** です。

そして、その PMD で把握した、上位目的、メインキーワード、それを実現するためには、どこから手をつければよいかのエントランス・キーワードを、入口として把握します。

その背景には、差の情報による意思決定のメカニズムという論文と何をするためどのようにして「なぜ」の質問の使い分け、DTCN の方針の方針の論文があります。これらの論文を読まれた上で、下記に進んでください。

そのメインキーワードは、課題を実現するためのステップリストという段階的作業と意思決定の手順の方法とその最終的な結果をイメージの構造・構成を最適化して創る考え方の **FBS テクニック** を、使って実現します。

その手順と考え方のイメージ図は下記の通りです。



以上の画期的な方法のさらに詳しい背景を知るためには、

分析をすると言うことは、なにをしさえすればよいのか。それで何ができるようになるかの論文 <http://dten-wisdom.jp/0-analysis.pdf>

と次ページ以降の書籍をご覧ください。(江崎通彦)

PMDは価値（＝意思）の方向を示す。したがって、テーマ毎に **PMD** をたくさん創れば、価値観を表すことになる。（詳細は、<http://dtn-wisdom.jp/J-Edition%202/J03-chap%201-2%20sano%20jouhou.pdf> の 1.2.3 項と図 1.2-7 を参照すること）

しかも目で見える形で、下記を明解にすることができます。

- ① 要するに、何をするため・・・・・・・・・・・・・・・・（上位の抽象目的）
  - ② 要するに、何を、どうするのか・・・・・・・・・・・・・・・・（メイン・キー）
  - ③ そのために、要するに、どうしさえすればよいのか・・・（どこから、手をつけるのか）（＝ エントランス・キー）
- これにより、
1. 意思を表明すること、その意思の「価値の方向」を表明することができる。→ 意思決定とも言える
  2. そして、これを価値基準として、差の情報と組みわせると、意思決定に基づく、判断ができるようになる。
  3. PMDを関係者（ステークホルダー）で創ると、関係者の意思決定、コンセンサス合わせができる。  
（これを、顧客と一緒に創ると、従来、営業のブラックボックスと言われたものがなくなります）

以上の考え方を利用することにより、従来、解決のできていなかった、「問題解決」、「課題実現」ができるようになります。

その、入門編につき、最近（2008-11-5）、130 頁の本を出版しましたので、その入手先を下記の URL にて紹介します。

<http://dtn-wisdom.jp/00001-R3.pdf>

（本のタイトル：課題を実現する、革命的な、もの・システムつくりの方法－知識を知恵にかえる方法－です）

なおその本の詳細版については、2002 年に、アスキー出版より出版しましたが、現在のところ、絶版になっているので、その本の全貌を下記の URL より、ダウンロードできますのでご利用ください。

更に、プロジェクトマネジメントとシステムエンジニアリングの関係も、明らかにして、DTCN/DTC 手法は、PM と SE を同時に実施できるようになっています。

<http://dtn-wisdom.jp/J-pdf%20entrance.html>

また、上記の方法で、何ができるか何ができたかの情報も下記の URL で見るすることができます。

<http://dtn-wisdom.jp/J-nanini%20tuckeruka.html>